

## いま、なぜ、 eポートフォリオなのか？

東京学芸大学 森本康彦  
E-mail: morimoto@u-gakugei.ac.jp

2017年3月10日

成城大学 公開FD・SD講演会・ワークショップ  
「主体的な学びとeポートフォリオ」開催

みなさん、  
新社会人の時を思い出してください。



あのときから、  
どれくらい成長したでしょうか？

その成長(変容)を証明する  
手立てがない。。。

2

そもそも、どうやって成長(変容)したの  
でしょうか。だって、特別な授業や  
テキストがあったわけではない。

自ら、たくさんのことを経験し、気づきを  
得ながら、継続的に成長(変容)し  
てきた！

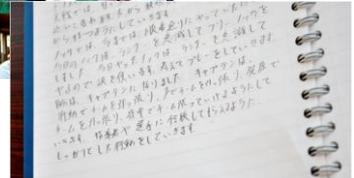
## 真正な学習

3

### 野球ノート

第1回 沖縄尚学高等学校

今までの  
意識と行動を  
変えるノート



高校野球ドットコム、コラム「野球ノート・今までの意識と行動を変えるノート(沖縄尚学高)」  
<<http://www.hib-nippon.com/column/597-note/7396-20121125no04note>>

### 野球ノートを活用すると...

- ✓ 練習や試合の「やりっぱなし」がなくなる。
- ✓ “自分のために練習する”という気持ちになる。
- ✓ 自分のスキルを自分自身で把握でき、  
同様に他者もその人の状況を把握できる。
- ✓ 自分自身の改善点や課題を発見し、そこを克服するための方略をたてる機会をつくる。
- ✓ 暗黙なことまで、学ぶことができる
- ✓ 自分自身の成長が見える化され、自覚できると  
ともに、他者もその人の成長を確認できる。
- ✓ チームが一丸となり、共通のゴールを持てる。
- ✓ ...

5

ただの「暗記」や「作業」ではない。  
主体的に粘り強く、振り返りながら、  
問題解決をしていく取り組み。

仕事と一緒に？

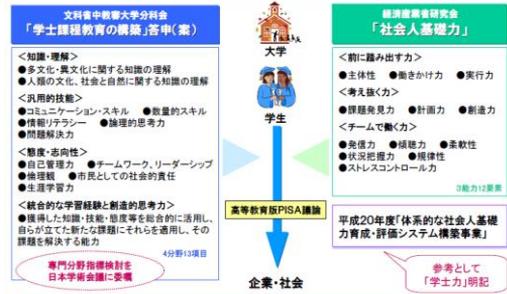
勉強も一緒に？

# 「21世紀型スキル」(ATC21S)

- **思考の方法**
  - 創造性と革新性、批判的思考、問題解決、意思決定、学習能力・メタ認知
- **仕事の方法**
  - コミュニケーション、コラボレーション、チームワーク
- **学習ツール**
  - 情報リテラシー、情報コミュニケーション技術・ITリテラシー
- **社会生活**
  - 市民権、生活と職業、個人的責任および社会的責任

# テストで測れないものを評価するニーズ ～ 学士力・社会人基礎力～

文科省「学士力」、経済産業省「社会人基礎力」に見る学習成果の重視



## 客観主義

## 構成主義

	1960	1970	1980	1990	2000
主な理論家	行動主義 スキナー	認知主義 (情報処理的アプローチ) ピアジェ		構成主義 ピアジェ	社会的構成主義 ヴィゴツキー レイブとウエグナー
特徴	学校化された学習			真正な学習	
知識観	知識は客観的に真なもの			知識は社会的な営みの中で構成されるもの	
学習観	知識伝達			学習者の事前知識から事後知識への質的な変化	
主体	教師中心			学習者中心	
学習者の態度	受動的			能動的・自律的	
学習環境	学校化された環境			真正な環境	
学習の傾向	暗記中心の学習			経験による学習	
教師の役割	知識の提供者			学習のファシリテーター	
構想システムへの適用	CAI ティーチング・マシン	知的CAI 知的チューティング・システム エキスパート・システム		LOGO マインドストーム	CSCL eラーニング
特徴	学校化された評価			真正な評価	
評価期間	ある時点			継続的	
評価形態	テストの点数的な評価			学習者のパフォーマンスの主観的な評価	
評価される対象	テストの点数と業績			学習活動のプロセスを通じた学習成果物や経験を重視	
評価の在り方	学習と切り離された評価			学習化された評価	
評価方法	能力測定	学習プロセス測定と 自動的評価		セルフ・アセスメント	ピア・アセスメント (専門家による) 他者評価

# 評価には、大きく3つある！

- Grading **評定**
- Evaluation
- Assessment **アセスメント**

評価

学習評価

今、求められている

「**学び**」と「**評価**」

# 教育観のパラダイム変換

前提条件: **主体的(アクティブ)**であること！

- 知識は与えられるもの
  - ⇒ **自ら構成するもの**
- 学校化された学習 ⇒ 真正な学習
- 暗記中心の学習 ⇒ 経験による学習
- 教師中心 ⇒ 学習者(学生)中心
- ある時点でのテストによる客観的な評価
  - ⇒ **継続的なパフォーマンスの評価**

「学習者による受動的な講義の授業」  
から  
「学習者による能動的な学び」へ

「学生が専門的知識を学ぶところ」  
から  
「学習者がこれからの社会で活躍で  
きる力を養い育てるところ」へ

13

### アクティブ・ラーニングの3つの視点

- **深い学び**  
習得・活用・探究という学習プロセスの中で、**問題発見・解決**を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか。
- **対話的学び**  
他者との協働が外界との**相互作用**を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的学びの過程が実現できているか。
- **主体的学び**  
子供たちが**見通し**を持って**粘り強く**取り組み、自らの学習活動を**振り返って**次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているか。

文部科学省、教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)、平成27年8月26日

たとえば、野球ノートのなかには、た  
くさんの学びの記録がある。つまり、

「**真正な学習**」の学習プロセス  
においては、**た**くさんの**学**びの**記**録が  
生成され、(教材として)活用される。

その状況を電子的に記録したモノ  
**eポートフォリオ**／**学習記録データ**

15

ポートフォリオは  
そんなにいいのか？

まずは、紙ベースの**ポートフォリオ**  
の話から**eポートフォリオ**の話へ

16

ポートフォリオとは？

『**学習**、**スキル**、**業績**を実証するた  
めの**成果**(work)を、ある目的のもと、**組  
織化**／**構造化**しまとめた**収集物**』

ポートフォリオ開発のプロセスと、**継  
続的**なり**フレクシ**ョンの**重要**性を**強**調  
している。

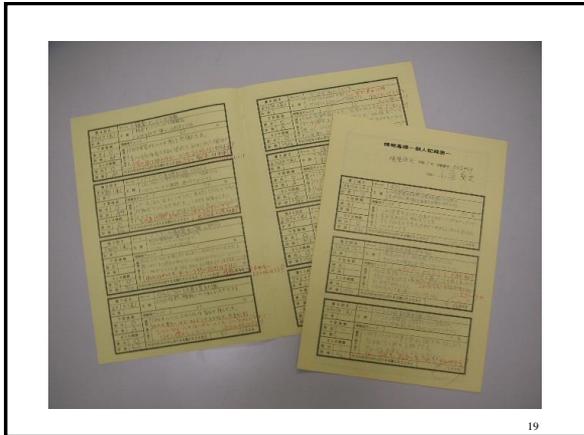
Jones, M., and Shelton, M.: "Developing Your Portfolio: Enhancing Your Learning and Showing Your Stuff", Routledge (2006)

17

(紙ベースの)ポートフォリオの実際



18



19

どこに学びがあるのか？

「**真正な学習・真正な評価**」では、

- 評価が学習の一部として埋め込まれており、
- 学習と評価は一体化され切り離すことはできない。

「**評価**」自体が「**学習**」そのものである

**メタ認知**

20

つまり、ポートフォリオを活用した学習と評価は、

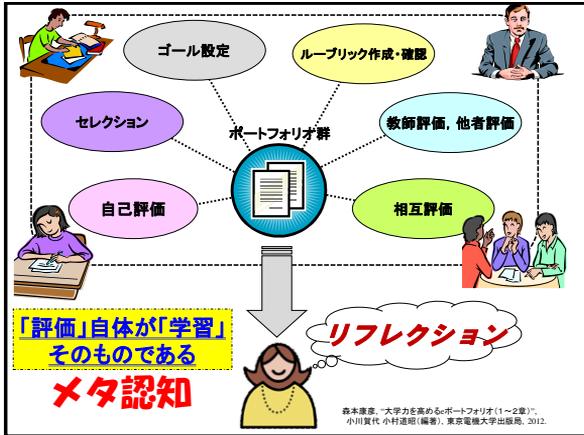
- 「プロダクト評価」ではない。
- 「終わりよければすべてよし」ではない。
- 客観テストの代わりに単なるレポートのことではない！！
- ただ、ためるだけではだめ。
- 学習の結果としての成果だけでなく、学習活動のステップから仮説を立てて、検証するプロセスをも対象とする。

21

(e)ポートフォリオ活動

活動名	
学習成果物の作成・蓄積	
ゴール設定	
ルーブリック作成・確認	
(e)ポートフォリオの精選(セレクション)	
評価活動	自己評価(セルフ・アセスメント)
	相互評価(ピア・アセスメント)
	他者評価, 教師評価
公開(ショーケース)	

22



森本康彦, 「大学力を高めるe-ポートフォリオ(1~2章)」, 小川賢代, 小村道昭(編著), 東京電機大学出版局, 2012.

紙ベースのポートフォリオのデメリット

- 一度作成したものは編集, 統合がしにくい。
- 音声や動画に対応できない。
- かさばる。保管場所が馬鹿にならない。
- 欲しいポートフォリオを探すのが一苦労。
- 年とともに風化する。
- 相互評価がやりにくい。他者の目に触れにくい。
  - いちいちその場所に赴く必要がある。
  - 限られた人数になりがち

**電子化して扱う“eポートフォリオ”の登場**

24

## eポートフォリオのメリット

- 内容の再配列や編集、統合が容易。
- テキスト・データだけでなく、画像、音声、動画などのデータが扱え、HTML形式やPDF形式など、必要に応じたファイル形式への変換が容易。
- 多量なデータを保存可能で、保存されたデータは劣化せず、複製も容易に行える。
- 情報通信ネットワークを通してアクセスが可能。
- 学校内(機関内)だけでなく遠隔地の人々との相互作用が期待できる。

**これが、eポートフォリオの最大の利点！！**

25

## eポートフォリオの2つの役割

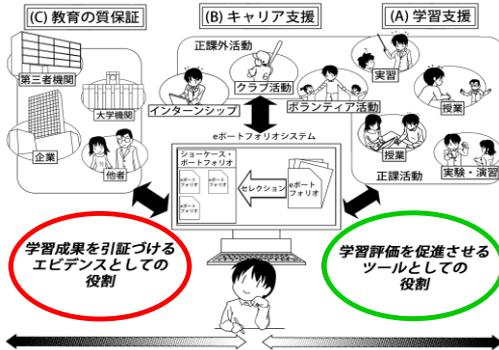
役割(1): 学習・評価を促進させるためのツールとしての役割

役割(2): 学習成果を引証づけるためのエビデンスとしての役割

**これらは、いずれか一方のみでなく両方の役割を同時に合わせ持つことが特徴である。**

26

## eポートフォリオの2つの役割



森本真彦、シリーズ「大学と社会を結ぶeポートフォリオ(第12回) eポートフォリオの活用と普及のための要件②」、文部科学教育通信、No.305、p27-27、2012。

29

**学習プロセスにおける  
eポートフォリオ活用の鍵**

## ポイント②

**主役は、学習者  
影の主役は、教員  
システムは、機械**

30

## ポイント①

**くどいほど  
自己評価を行う**

31

## 自己評価(セルフアセスメント)の特徴

- 自己評価は、単に、自分に点数を付けることではない。
- 自ら「**反省し、振り返ること**」  
⇒「メタ認知」を中心とした、自己追及の姿そのものを育てること。
- **評価が学習と一体化!**

● 自己評価(セルフアセスメント)は、**省察(リフレクション／振り返り)を誘発させ、学習を生起させる**。

● 自己評価は、学習者を自律的にさせ、自己調整(self-regulation)を促進させる。

32

## ポイント②

### 相互評価による 学び合いを行う

33

## 相互評価(ピアアセスメント)の特徴

- 学習者をより自律的にさせ、学習動機を高める。
- 他の学習者の意見は、テストによる単なる点数以上に学習者の内省を促進する。
- 他の学習者を評価することにより、相手の成果から学んだり、自己の内省を促すことができる。
- 学習者同士からのフィードバックは理解しやすく、教師が考え付かないような有用でバラエティに富むフィードバックが期待できる。
- ...
- 評価者(assessor)は、被評価者(assessee)よりも学習効果が高い。
- 相互評価は、**さらなる自己評価を誘発する**。

34

## ポイント③

### 教員評価による フィードバックで支援

35

## 教員評価の役割

学習者中心の学習においては、教師は、評価活動を刺激し、組織し、支援する、「支援者」、「よき相談役」としての**ファシリテーター**の役目を担う。

- ◆ 専門家としての知識の提供
- ◆ 授業者(教師)として、『学習+評価』を支援する
- ◆ コミュニティ(学びの共同体)を促進する

36

## 学習支援としての 「足場かけ(scaffolding)」

「スキャフォールディング(scaffolding)=足場かけ」とは、熟達者が学習者に向けて、適切な援助や声掛けなどを行うことで必要な足場を固めてやり、徐々に自分の力でできるよう成長をサポートするというもの。



あたかも生徒が、自分自身の力で出来るようになったと思わせるくらいに適応的な「足場かけ」が理想!

37

## ポイント④

### 主体性を引き出す ゴールを設定する

39

### 動機づけと達成目標

#### □ 遂行目標

他者と比べてよい成績をとりたい、他者より悪い成績はとりたくないという遂行結果に着目した目標

#### □ 熟達目標(習得目標)

自分自身が学習内容を理解したり課題に熟達したりすることをめざす目標

新しい教育観における効果的な目標設定

40

### 評価の客観性・妥当性は？

目標(ゴール)に準拠した評価の実現

何をどこまでやらなければならないのか！？

「評価規準」、「コンピテンシー」、  
「ラーニングアウトカムズ(学習成果・到達目標)」

#### スタンダード

(国家, 州, 地方分権, 機関レベルの共通目標)

授業等に即した評価基準へ

『ゴール』, 『ルーブリック』

41

## ポイント⑤

### eポートフォリオを活用 する目的、使うことの 意義について皆で共 通理解を持つ

42

### 目的の分類

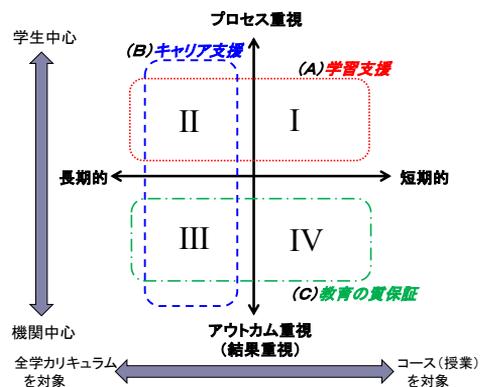
- (A) 学習支援
- (B) キャリア支援
- (C) 教育の質保証

多くの大学はこれら三つを達成するため、eポートフォリオをなんとなく導入しようとしている実状がうかがえる。

↓ 落とし穴

これら三つを同時に達成することは、とても困難な取り組みであり、高度な運用のためのマネジメントが必要となる。

43



## ポイント⑥

eポートフォリオは、**単なるツール**であり、**目的を達成するための単なる手段**であることを知る

45

## 主役は誰？

eポートフォリオ活用は、社会構成主義的な教育観をベースに成り立っている。

◆主役: 学生

◆影の主役: 学生を支える教職員

唯一の有能なリーダーによってトップダウンで展開できるのは導入までで、それ以降の普及は現場の主役たちを中心にボトムアップ的に展開されなければ全く機能しない。

導入と普及を一緒くたに考え議論してはダメ！

46

## eポートフォリオ活用のための支援

「技術的支援」:

eポートフォリオシステムの操作指導、トラブル対応、マニュアルの作成等

「教育的支援」:

eポートフォリオを授業等で効果的に活用するためのガイダンスや個別のカウンセリング等

47

## 最初(年度始め等)の支援

学生には: 新入学セミナーや定期的に関行されるガイダンス等を利用

教員には: FDなどの研修の機会を設定し熱心に参加を求める

※ その際、参加することがゴールではなく、あくまでeポートフォリオを理解し今後活用していこうという内発的な動機づけを与えるための手段であることを忘れてはいけない。よって、講演形式の一方向的なものだけでなく、それ自身が仲間同士(ピア)の協働による学び合いの機会になるとよい。

48

## その後の継続的な支援

実践中の利用者をいかに動機づけ、サポートできるかが焦点となる。

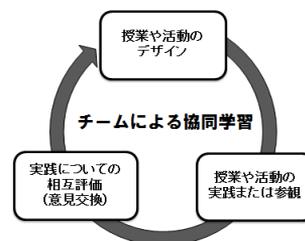
相談窓口: ヘルプデスクの設置や専任スタッフを配置する

講座や研修会: 定期的に活用時の参考となる講座や研修会を設定する

※ 相談窓口に関しては、利用者が主体的でなければ機能しない。講座や研修会は、多くの機関では、学生がeポートフォリオを使ってくれないという理由から学生に対する支援を強化しようする傾向があるが、必ずしも有効ではない。むしろ支援を行う対象は、学生ではなく学生をサポートし適切な方向へと誘導するファシリテーター役である教員の方が効果がある。

49

## 教員のための研修のサイクル



従来から初等中等教育の教師間で行われている授業研究の方法を取り入れたものであり、自らが実践者/学習者となり協働で行わたことが特徴で、参加型の研修である。

一連の研修が、形式知だけでなく暗黙知までも習得できる学び合いの場となり、皆が教える側であり皆が学習者の側となる。真正な学習そのものである。

50

## ポイント⑦

学習プロセスを  
「見える化」する



「見ようとする化」する

51

「見える化」でわかること



学習者の状況(学習状況など)

- 「変容」していくこと  
⇒ **学び／成長すること**
- 「差(ギャップ)」を埋めていくこと  
⇒ **支援すること**

学習・評価を支援するためのものとして  
機能し、学習／成長を促進させる

52

## ポイント⑧

eポートフォリオを起点に  
して、「**学びのコミュニティ**」  
を構築する

53

実践的なコミュニティに成長させ、最終的には  
機関全体を巨大なeポートフォリオを活用  
する一つのコミュニティにすることが必要



- eポートフォリオの利用を、
- ・ 全学的に広め、
  - ・ 何年にも亘り継続的に有効活用し、
  - ・ その機関に根付かせる、  
ために成長させる！

eポートフォリオが活用され普及しはじめると、  
eポートフォリオを活用する**コミュニティ**がいくつ  
か存在してくる。(存在していることに気づく)

54

活発に機能するコミュニティ構築のために

- ✓ eポートフォリオ活用をベースとしたこの教育手法に賛同し良き理解者である教員と学生たちを中心に、
- ✓ 学部・学科内に協働で取り組めるチームをつくることから始める。
- ✓ その際、機関は制度的にコミュニティをバックアップできるよう配慮する。(事務組織も部署間の風通しをよく！)

そのコミュニティは、強制的なトップダウンによって組織された単なる集団ではなく、実践共同体としての自律的なコミュニティでなければならない。

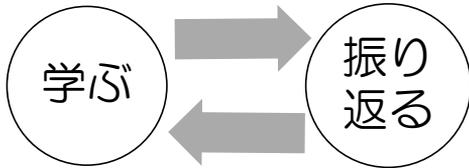
55

## ポイント⑨

ゴールは、  
学びとその振り返りの  
「**習慣化**」！

56

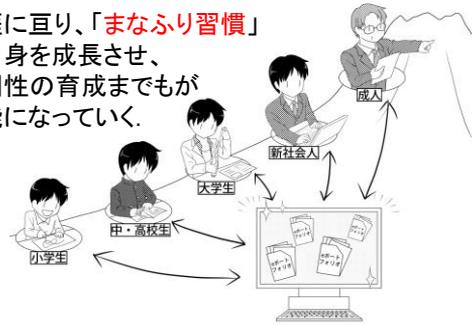
## まなふりサイクル



57

## 生涯学習(Life-long Learning)

生涯に亘り、「まなふり習慣」が自身を成長させ、専門性の育成までもが可能になっていく。



森本康彦ほか、「教育分野におけるeポートフォリオ」、ミネルヴァ書房、2017。 58

おわりに

59

今、学習者が学び成長するために求められる最大のものは「主体性」です。この「主体性」は、ICTで引き出すことは限界があります。そして、eポートフォリオは、とてもいいですが、それだけでもダメなのです。これは、あくまでも「ツール」だからです。学習者の主体性を引出し、教育を司るのは、「人間」です。それが教育です！

60